

第2回 府中市商店街振興プラン検討協議会 議事要旨

- 日 時 令和3年5月27日(木) 18:00~19:45
- 場 所 府中市役所北庁舎3階第四会議室
- 委 員 委員 井上博正 氏 委員 郭東仁 氏
委員 川口宣男 氏 委員 筒井孝敏 氏
委員★ 廣瀬健 氏 委員 丸山悦子 氏
委員 宮沢ゆい 氏 委員☆ 森田俊朗 氏
委員 森本憲 氏 (計9名)
★：会長、☆副会長
- 欠席委員 郭東仁 氏
- 傍聴者 なし
- 事務局職員 産業振興課商工係
- その他 むさし府中商工会議所 職員2名
- 議題
1. 開会
 2. 第1回協議会の議事録について
 3. 本日の協議内容の概要説明
 4. 協議事項
(1)人口・商業の現状及び市民の消費動向・商店街との関わりについて
(2)商店会の実態及び個別店舗の経営実態について
(3)計画の進捗について
 5. その他連絡事項
- 配付資料
- 資料1 第1回府中市商店街振興プラン検討協議会 議事要旨
資料2 府中市商店街振興プラン策定に向けた現状のまとめ
- 議題(詳細)
1. 開会
- 廣瀬会長 定刻より早いですが皆さん揃ったので、令和3年度第2回府中市商店街振興プラン検討協議会を開催したい。本日は緊急事態宣言下であり、オンライン、WEB会議という形になっている。慣れない環境だが、議事の円滑な進行に努めていきたいので、皆さん、ご協力いただきたい。
- 事務局 事務局職員の紹介、本日の委員の出席状況の説明を行った。1名欠席で9名中8名が参加しているので、本日の会議は有効に成立。傍聴希望は

なし。WEB 会議上の注意点の説明を行った。

2. 第1回協議会の議事録について

- 廣瀬会長 議事要旨をご確認いただいた中で、修正すべき点や気づいた点があれば、ご意見をいただきたい。お手元の資料については、事前に連絡をいただいて修正を加えた点があるので、事務局から説明をしていただきたい。
- 事務局 事務局より資料1に基づき説明を行った。
- 廣瀬会長 修正希望や質問はあるか。
(質疑なし)
- 廣瀬会長 資料のとおり議事録の内容を確定したい。事務局は速やかに公開の手続きを行っていただきたい。次に進みたい。

3. 本日の協議内容の概要説明

- 廣瀬会長 事務局から説明をしていただきたい。
- 事務局 事務局より協議内容の概要説明を行った。
- 廣瀬会長 何か質問はあるか。
(質疑なし)
- 廣瀬会長 資料2の5つの項目について、順に確認していきたい。

4. 協議事項

(1)人口・商業の現状及び市民の消費動向・商店街との関わりについて

- 廣瀬会長 事務局から説明をしていただきたい。
- 事務局 事務局より(1)人口・商業の現状及び市民の消費動向・商店街との関わりについて説明を行った。
- 廣瀬会長 何か質問はあるか。
- 森田委員 P11の図表11だが、興味深い点は、男性の高年齢層の方が商店街に行っている点。そこに伸ばす芽があるのではないか。
- 廣瀬会長 若手が商店街に行っていないという話を反転すれば、伸びるところ、強いところが見えてくるのではないかという意見だが、その点に関して、事務局はどう考えているか。
- 事務局 男性高齢者が商店街を身近なものとして利用しているという結果は読み取れる。要因としては、高齢者の一人暮らしが増加しており、特に男性に関しては、近くの方が買い物に行きやすいという傾向があるのではないか。ここに対して、どのような施策を出していくのか、今後、皆様からも忌憚のないご意見をいただきたい。
- 川口委員 50~70代の方が近くで便利だから買っているということはあるが、そこ

に視点を合わせてしまうと、商店街としては未来がないという気持ちもある。

井上委員 調査対象者は、商店街以外を含めて、どの程度買い物に行っているのか。
事務局 調査対象者全員で 900 名、そのうち商店街をほとんど利用しない方が 4 割いる。逆にいうと、6 割の方は買い物をしていると読み取れる。

井上委員 この人達は、日常的に別のところでも買い物に行っている人達なのか。
廣瀬会長 調査対象者の年齢層として、18 歳以上なので、何かしらご自身で買い物を
する年齢には到達していると思う。インターネットを含めて、他のところでも
買い物をしている可能性もある中で、この調査では商店街での利用頻度を
問われていることだと思う。

森本委員 この結果に納得する部分はある。晴見町商店街では、既に生鮮品が欠けて
いる。生鮮三品で残っていた魚屋さんが閉店してしまい、商店街としては
非常に痛手がある。商店街としては、今後、こうした動きがさらに出てくる
のではないかと不安感を持っている。この調査結果は身に染みて感じる
部分がある。また、同じ場所でいっぺんに買うことができない。ショッピング
センターでは、カートで一回りしながら買うことができる。その点は楽だ
と思う。それに対して、商店街はどのように対応していくのが課題。その
部分が一番のキーポイントだと思う。

宮沢委員 自宅近くの商店街を利用しない理由でその他が 31.9%あるが、内訳は
わかるか。

事務局 内訳はわからない。

丸山委員 中河原の商店街のイメージだと生鮮はない。商店街のイメージが
わからない。商店街のどの分野を対象にした調査なのか。高齢男性が毎日
商店街に何を買いに、何をしに行っているのか。食品に関するものか。飲
食も含まれるのか。

事務局 あくまでも回答者が商店街と捉えている店舗で利用しているか否かを
回答したもの。タバコ、牛乳でも、商店街の中の店舗で買ったものであ
れば、商店街を利用している回答と認識している。商店街には、生鮮だけ
ではなく、様々な業種のお店がある。この世論調査では、様々な業種が
集まった商店街の利用状況の現状を把握するためのものだとご判断いた
だきたい。

(2)商店会の実態及び個別店舗の経営実態について

廣瀬会長 次の議題に進みたい。事務局から引き続き説明をしていただきたい。

事務局 事務局より(2)商店会の実態及び個別店舗の経営実態について説明を行
った。

- 廣瀬会長
井上委員 何か質問はあるか。
市内 48 商店街の中で、生鮮三品が揃っているところはあるのか。店舗構成として、小売業はどのくらいの割合を占めているのか。商店街の景況について、全国でこの 20 年で 30 万の商店街が減少しているが、それとの比較はできないのか。P21 の空き店舗のところで、空き店舗に店舗が入らない原因として「家主、大家の事情」とあるが、これは元店主か、そうでないのかによって異なる。
- 事務局 生鮮三品が揃っていない商店街が多くなっていると認識している。全国の商店街の現状と本市の商店街の現状は、ほぼ一致していると認識している。空き店舗については、元オーナーさんが自分ではやらないが、別の店を入れる場合には、しっかりとしたお店を入れないと周りの店にも迷惑だし、自分にも降りかかる可能性があり、それであれば無理に入れることもなくシャッターを下ろしている方が気は楽だという意見を、複数店舗からいただいている。
- 井上委員 生鮮三品が揃っているところは、一部を除いてないと思う。空き店舗については、元店主が元店舗に住んでいる場合が大部分なので、空き店舗ではなく住宅に変わっている。そういう点を踏まえないと、実態と離れてしまう。
- 宮沢委員 P12 では商店街を利用しない理由として「一店舗ですべての買物ができないから」と挙げられている一方、P17 の商店街の活性化に向けてまちづくりの視点で取り組んでいることとして「地域活動」などが挙げられている。これをみると、商店街は、消費者ニーズに応えられていないのではないかと思う。商店街の人たち自身、お客さんが来ない理由を把握できているのか疑問に思った。
- 事務局 今回のプランでは、現状や成功例などの結果を、商店街の方々に意識してもらおうことが大切だと考えている。
- 森田委員 空き店舗のオーナーさんの事情だが、ご自身のお店を閉めて賃貸アパートやマンションに変えてしまっていて、商店街の会員だが本業は不動産賃貸業になっている方も多いと聞く。元々、駅に近い商店街だと、お店を閉めてアパートやマンションにした方が、結果的には手元に残るお金が多いということになると、商店街振興の進むべき方向をどこに持っていけば良いのかという思いはある。ニーズに応えられていないというご指摘はまさにそうだと思うが、他でお金を稼げているのであれば、お店にエネルギーをかける順番が下がる人もいる。府中という水準が高い地域であるが故に、商売を辞めてしまっても成り立ってしまう悲しい現状があるのではないか。そのあたりを踏まえないと、もう一度お店を開きません

かとか、別の方にお店を貸して商店街を活性化してみませんかとは、なかなかならない。

森本委員 晴見町商店街は、府中駅から徒歩 10 分圏内で、中心市街地から比較的近い商店街である。商店街の南側半分くらいの住人の方は、昔から駅の方に行く傾向はあった。それでも、都営住宅もあり、周辺には高齢化が進んでいる地域もあり、戸建て住宅も多い地域。そういう方々は、割と晴見町商店街を利用している。それでも、バス停 2 つくらいで駅に行くことができる現状であり、商店街の状況も昔とは変わってきている。ここには出てきていないが、商店街の後継ぎ問題が一番の課題。晴見町商店街は、振興組合として発足したのは 27 年前だが、当時は加盟店が 74 店あったが、現在は 40 店を切るころまできてしまっている。その中で物販は 12 店舗しかない。殆どはサービス業と飲食店。ものを売るという方向ではない方に行きかけている。当初の商店街の目論見とは違う方向に行っている。また、商店街活動に皆さん興味がなくなってきているので、役員をやりたがらない。晴見町商店街は、周りの商店街に比べれば良いと思われているが、実態は結構厳しい。空き店舗については、駅から比較的近いので、家賃が高い。それで入りづらいという点もある。

丸山委員 商店街を構成している方の意識がわからない。何を言っても変わらないのではないかという思いもした。商店街が盛り上がってれば、お客は使う。当事者の方の意識として、本当に商店街を盛り上げたいと思っているのか。

事務局 このアンケート結果が現状のすべてだと思う。このままの状態でもしていかなかった場合、衰退の一途を辿ってしまうという危惧を抱いている。全国的にもそうだが、これまでのような絵に描いた餅のような振興プランでは駄目であり、新しい振興プランを見て、商店街の皆さんが一步踏み出すような、買い物をする側の方のご意見もいただきながら、実態に即したプランにしていきたい。

川口委員 今、ご存じの通り、景気は非常に悪い。府中市全体の商店街の景気も悪い。特に物販に関しては、非常に大きな打撃を受けている。生鮮三品のない商店街では、特に主婦の皆さんは、楽しく商店街で買物をするのができない。なので、近くにスーパーがあれば、スーパーに行ってしまう。後継者がいなくて、魚屋さんが辞め、肉屋さんが辞めた。後に入ってくるのは、整体か美容院。また、アンケートでは P17 にあるが、まちづくりの視点でというのは、非常に行政的な設問。この設問は、まちづくりの視点でと書いてあるので、商店街の活性化でこういうものを売りたいとか、ああいうことをしたいとかの視点ではない。先ほど、消費者

ニーズとずれているのではないかという指摘があったが、このアンケート調査の結果は、ずれが出て当然。アンケートに答えた方としても、この設問はずれていると思いながら回答した。

事務局 アンケートについては、若干、行政的な聞き方があったと思う。アンケートで把握できない部分は、商店街へのヒアリング調査で補足したい。

森本委員 商店街というのは、その地域では自治会や高齢者団体などと同じで、行政と連携をとる団体として見られている。いろいろな関わりの中で、地域と関わっているの、ある意味、地域活動は必然だと思う。視点がずれているという指摘も理解できるが、必然な部分がある点は言っておきたい。商店街が、消費者の志向に向いていないという訳では決していない。消費者ニーズに対応した取り組みとして地域活動している訳ではない。プラス志向で活動している部分の一つだと思う。

廣瀬会長 商店街の強みは何かを考えた場合、P12の結果では現状では低い、商品の品質が良いとか、顔なじみの店で会話しながら買物できるからというのが、強みにあたるのではないかと思った。そういう面に力を入れていくことも大事なのではないか。

川口委員 誰かがいるからとか、誰か友達がいるからとか、そういうことで買物に来る方は多い。ただ、それだけでは商店街は成り立たなくなってきている。府中市が、商店街の振興プランを考えていただいていることは、非常にありがたいことだが、今後、注視していかなければいけないことは、市が商店街をどういう方向に持っていきたいのかということ。前回プランを策定した時よりも、景気は悪くなっている状況の中で、行政がどういう風に商店街をしていきたいのか。市の考え方はあると思う。そのあたりも一緒に考えていきたい。

筒井委員 アンケートには答えたが、アンケートは聞かれ方によって答えが異なる。アンケートで聞けない部分をヒアリングで歩いて聞いてくださると言っていたので、それなら良いかなという気持ちでアンケートには回答した。以前は、商店街で祭りをやった際には、お客さんに謝恩という形でサービスをすることができたが、今は祭りをやっても、謝恩ではなく、お客さんではない人たちに対して、ボランティアのようになってきている。中心街の商店街とは異なり、地域に根差している商店街では、地域のお客さんとのコミュニケーションはできていると思う。その中で、顔が見える関係ができている。ウチの商店街では、病院、薬局、飲食店、パン屋さんなどがあり、結構、盛り上がっている。生鮮に関しては八百屋さんが一軒あるが、ここも近所の人たちが便利に使っている。P11の結果を見ても、良いところを取っていると思う。昨年秋に、プラッツに出て、

高校生の夢というのがあった。その中に、柔らかメシというのを商店街で出してもらえないかという話があった。外から見ただけでは、飲食店にしても、惣菜屋さんにしても、柔らかいものがあるかどうかわからない。それを、商工会議所や連合会で、柔らかいものがありますというステッカーを貼り、歯や胃が悪い人たちでも噛み切れるものが置いてあります、というようなことを、府中市全体でやると盛り上がると思う。また、現在、社会福祉協議会と共同で11の文化センターでやっているが、ちょっとお手伝いという事業がある。高齢者の方の居場所づくりを創ろうという取り組み。一昨年、武蔵台周辺の方を対象にアンケート調査を実施して、犬の散歩ができる、草刈ができる、電球を交換できる等、ちょっとしたお手伝いができるという回答を400人くらいの方から得た。コロナの影響で、数件しかタイアップできていないが、そういうお手伝いを10分間やることで200円の手当を払うことにしている。これをポイントにして、商店街で使うことができるようにしたら良いのではないかという話を、社会福祉協議会としている。商店街連合会では、一昨年に、キャッシュレスの機械を無料貸出した。希望者は少なかったが、その機械もポイントに対応している。今後の商店街のあり方としては、地域に密着していく。高齢化したとしても、地域密着が良いのではないか。そういうことが振興プランの中で計画できていけば良いと思う。

事務局 地域通貨については、先進的に取り入れている地域があることは把握している。本市についても先進事例について調査研究を始めたところであり、必要に応じて、導入していくべきだと考えている。

筒井委員 通貨云々ではない。八王子市でもボランティアポイントをやってみたが、うまくいかないという話しはある。埼玉県坂戸市や鶴ヶ島市は結構うまくいっている。このポイント事業は、単体で商工だけでやろうとしたら、難しいと思う。社会福祉協議会で既に始まっているボランティア制度の中でのポイントを使ったら良いのではないかという話し。

(3)計画の進捗について

廣瀬会長 次の議題に進みたい。事務局から引き続き説明をしていただきたい。

事務局 事務局より(3)計画の進捗について説明を行った。

廣瀬会長 何か質問はあるか。

井上委員 何々をしましたというのが非常に多いが、結果としてどうなったのか。

事務局 現行プランでは数値目標の設定がないので、結果についての評価が難しい。次のプランでは、結果の評価や進捗管理について、目標や数字設定をしていきたいと考えている。なお、資料では、現状を受けて今後の展

望を記載しているのので、その部分が現状として不足している部分だと読み替えていただければと思う。

廣瀬会長 今後の展望に関して、委員の皆さんからのご意見を、新しいプランに含めていくことができると良い。

森田委員 地域資源を活用した商品づくりだが、どこまでやるのか。今治タオルくらいになるまでのことを想定しているのか。商店街で特徴的なお菓子を作るなどを想定しているのか。程度の差が非常にある。極端なことを言えば、最後はふるさと納税の商品にするくらいのイメージでいくのか。何をどこまでやるのかを最初に決めておく必要があるのではないか。また、地域通貨の話は基本的には賛成。商工畑でやるのか、ボランティア型でやるのか、そのまちにより色々なタイプがある。ここを切り分けておかないと、役所の予算の使い方にも関係してくる。経済産業省系のお金と厚生労働省系のお金を同時に使うと、混乱するだろうと思う。コンセプトや事務のルールなどを創らないといけない。

事務局 今までの振興プランには明確な指針や目標値がないので、新しいプランでは入れていきたい。また、特産品事業というのは、ハードルが高いと考えている。名物品を創るのか、話題づくりなのか、地域資源は必ず入れないといけないのか等。そのあたりの目標を示せるプランを創っていきたい。なお、市が特産品に認定したもののなかで、ふるさと納税の品目になっているものもある。最終的な目標としては、市がPRできる商品開発ができれば、ありがたい。地域通貨については、様々な事例を参考に検討していきたい。

宮沢委員 特産品については、特定の会社にご利用しますというのではなく、例えば、市から地域資源を使った商品を提示して、プロジェクトチームのような形で複数の事業者が関わることはできないのか。複数の事業者が関わるような形の方が持続するのではないか。

事務局 市でも特産品開発に対する補助事業を行っている。これは、1店舗だけではなく、複数の団体からの提案も受け付けている。過去には製品化したものもある。そういうものを、どんどん広報しながら、結果的に商店街の活性化につながれば良い。

川口委員 計画の進捗で5つの施策があるが、今後もこれを活かしていくのか。それとも新しく創っていくのか。

事務局 計画自体は現行計画をベースに創るが、中身については見直すべき部分は見直しながら、次期計画を創っていきたい。新たな視点が必要であれば加えていくし、必要ないという視点があれば削除するという事も考えられる。

- 丸山委員 商品づくりに関しては、良いものができれば、それはそれで良い。ただ、今まであるものを、もう一度見直すことも良いのではないのか。元々、府中で育っていない人にとっては、府中ではこれが有名なのかということも結構あると思う。昔からある府中のものや地域資源を、市民に知っていただくことも必要ではないか。人づくりについては、職業訓練学校のようなところで後継者育成はできないのか。
- 森田委員 大人になってから府中に来た人は、数十年府中に住んでいても、結局、よくわかっていない部分がある。そもそも府中に何があるのかを知らないケースが多い。また、先ほどのリタイヤした人に地域活動してもらおうという話しも、大人になってから府中に住んでリタイヤした人には難しい。そういう中で、商店街が受け皿となる、きっかけづくりになるのは良いのではないか。また、P33のIT導入促進については、昨年度から府中市独自の補助金事業が始まっている。中小のお店が、新しいお客さんを探すためにかかる費用を、30万円を限度に補助するもの。この事業では、できれば府中市内の業者に頼むという条件が付いている。商工会議所が事務局を引き受けているが、こういう事業を使って、市内のIT企業と市内の小さなお店がうまく連携できると、府中の中で一度お金が回り、なおかつ府中の外に向けて府中の産品が売れる。そういう流れになると面白い。
- 廣瀬会長 既存の制度もうまく活用できると良い。これまで委員の皆さんからいただいたご意見をもとに、次回の会議につなげていきたい。次回までに事務局が課題を抽出して資料にまとめ、可能であれば施策の体系の大枠を事務局案として皆さんにお示しできればと考えている。今回は、その案をもとに、課題から見える活性化への方向性、次期プランの内容について検討できればと考えている。最後に、事務局からその他連絡事項についてお願いしたい。

5. その他連絡事項

- 事務局 委員報酬の支払いの件、本日の会議録、次回の会議日程について説明を行った。また、次回の会議日程を調整し、6月29日(火)18時からと決定した。次回の会議は対面を想定しているが、緊急事態宣言下であれば、WEB会議とすることも想定している。なお、対面の場合でも、委員の皆さんのご判断でオンライン参加ができる対応はしていきたい。

以上